

# 郷土かわらばん

発行  
流山市立  
森の図書館  
指定管理者  
株式会社すばる

## 本多氏の所領が流山にあった！

江戸幕府支配の頃、流山の村別の支配図を見ると、四ヶ村だけ田中藩本多家が支配していることがわかります。この本多家、かの徳川四天王の一人、本多忠勝と関係があるのか調べてみることにしました。

本多家は、藤原北家兼通かねみちの末裔とされています。系図を辿ると本多助政という人物にあたり、その子、定通と定正(政)から分かれています。本多忠勝は定通を血筋に辿る家系にあり、一方で、流山の本多氏は定政を祖先に持つ正貫まさなであると確認できました。



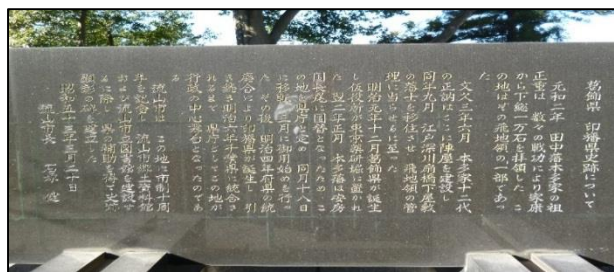
流山市の村別の支配地図

流山の本多氏は、正貫の時代(一六二五年)東深井村、西深井村の領主となりました。(『本多正貫領地目録写』) 続いて、緒ヶ崎村を所有(一六六三年)し、その後を継いだ正直まさなの時代を経て、正永まさながの代(一六九八年)に加村を所有しました。正貫、正直の代には一万石未満の旗本でしたが、正永の代には一万石の大名となり、下総舟戸藩藩主となりました。

江戸時代、流山の土地は天領、旗本領、大名領が混在する相給あいきゅうが一般的でした。\*

四つの村を本多氏が単独で治めていた事実は、勢力の大きさと幕府からの信頼度を表していると考えられます。

葛飾県印旛県史跡の石碑の裏面には、本多家がこの地を治めていたことが書かれています。



葛飾県印旛県史跡の碑 (流山市立中央図書館・博物館敷地内)

調査の結果、流山の本多氏の土地は本多忠勝とは直接的な関わりはありませんでしたが、沼田・駿河・安房へと所在地を変えていきながらも、流山の土地は明治維新まで本多家が支配し続けていたのです。

※相給：…一つの村を二人以上の領主で治めること。

# 郷土を知る～3～

## なぜ、西深井の道は迷うの？

西深井の道細い道を行くと、よく民家に突き当たり、行き止まりになることがしばしば。なぜ、迷路のような入り組んだ道になっているのでしょうか。

かつて西深井には「深井城」

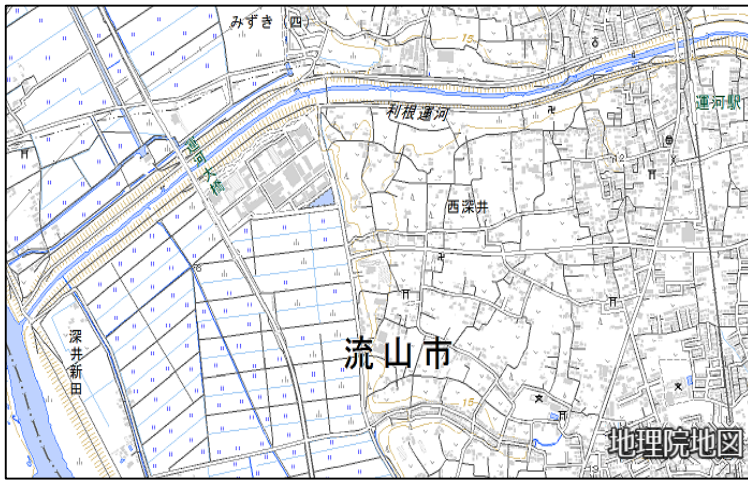
があったといわれています。その場所は、深谷坪辺りや、不動坊付近、ジヨウエン坊跡、庚申山など諸説あります。『千葉県東葛飾郡誌』を見ても、「深井城址新川村に在り、今其城址を詳にせず」と記載されていることから、正確な所在地は明らかになっていません。

中世の城の名残として、西深井の道路は連続した曲折の繰り返しや、食い違い十字路などがあちらこちらに見られるのは、

その影響と考えられます。現在でも迷う要因となっていることは間違いありません。

みなさんも、歴史を感じながら街歩きをしてみてはいかがでしょうか？

西深井付近の地図



国土地理院の電子地形図（タイル）より

## 参考文献

『流山市史研究第5号』

流山市教育委員会 1987年

『チエック！流山のむかし』

流山市教育委員会 2016年

『千葉県東葛飾郡誌』

千葉県東葛飾郡教育委員会 1923年

『日本名字家系大事典』

東京堂出版 2002年

『日本家系・系図大事典』

東京堂出版 2008年

『千葉県地名日本歴史地名大系12』

平凡社 1996年

『日本諸系図大事典』

講談社 2003年

『楽しい東葛地名辞典』

東葛流山研究 第30号 斎書房 2012年

『東葛飾の歴史地理』

斎書房 1994年

『流山市史 通史編1』

流山市教育委員会 2001年

『千葉大百科』

千葉日報社 1982年

いずれも、森の図書館の郷土コーナーで閲覧ができる資料です。流山について詳しく調べるときは、是非ご利用ください。

協力 流山市立中央図書館・博物館